

親愛なる棚田嘉十郎さま、いかがお過ごしでしょうか？

今年の奈良を天の上から、どのようにご覧になられていますか？

今年の奈良は、ほんとに凄いでしょ。

上から見られていても、その賑わいが伝わっているのではないのでしょうか？

ちょうど100年になりますね。

あなた達が、平城奠都1200年祭を挙げてから。

100年後の奈良、平城宮跡はこうなっているのですよ。

そして、嘉十郎さん。

あなたが、あんなに歎かれていた大極殿跡。

今年の春、それはそれは立派な立派な正殿復原が完成したのですよ。

思い返せば、都跡村の山下鹿蔵さんになんとか尋ねられた「都跡村」の意味。

そして、それが「都の跡」という事を知った時、あなたは赤面して自分の無知を恥ずかしがられました。

そこですよ。嘉十郎さま。

もしあなたが、自分の無知を恥じるお人柄でなければ、その後の熱意ある行動も無かつたでしょう。

そして、山下鹿蔵さんに初めて「大極の芝」に案内された時、

牛の糞が散乱し、悪臭が漂い、枯れ草は生え放題の状態でしたよね。

その荒涼たる光景にあなたは大変驚かれ、「これは恥ずかしい。」と呟かれました。

その呟きから、すべてが始まったのです。

「恥ずかしい。」

この一言が無ければ、今年の奈良の賑わいも無いかもしれないですよ。

きっと今、嘉十郎さんが見られたら、さぞかし驚かれるでしょうね。

復原された、大極殿正殿。

残念ながら、平城神宮は実現しなかったですが、

平成の今、おそらくあなたの想像をはるかに超えるでありましょう、立派なものが建った
のですよ。

あなたが人生を賭け、そして、その命を賭けられた平城宮保存。

そのきっかけは、この大極殿跡でしたね。

関野先生の新聞論文を読んで以来、あなたの人生は、奈良にとってかけがえのないもの
になりました。

もし、あなた様がいなければ、宮跡の跡田畑は住宅地となり、

ビルや道路になってシルクロードの楼蘭のように幻の都として、人々の記憶にも残らな
かったかもしれません。

あなた様の、石のような熱意が無ければ、今年の奈良の賑わいもおそらく無かった事
でしょう。

あなたは、たとえ「大極殿狂人」と嘲笑されようとも、米粒がなく米の汁で飢えをしのご

うとも、子供の着物が無くなろうとも、挫けずに目標を持ち続けられましたね。

その貧困がたたり、家族全員が病気になっても、自らの目が見えなくなっても、

頑なに「大極殿狂人」を貫かれました。

そうそう、汽車賃が無くなり、東京から奈良まで歩いて帰ろうとした事もありましたね。

そして、ついにあなたは大正2年（1913）、「やったぞ！」と叫ばれました。

徳川頼倫侯爵を会長に念願の「奈良大極殿址保存会」結成された時の趣意書にあなたのお

名前が明記され、それまでの努力が讃えられました。

妻のイエさまの読む言葉に一字一字頷きながら、あなたは何度も何度も自分の名前を確認

されましたね。

受験生が合格発表の番号を見つけた時のように、何度も何度も。

ひしひしと、その嬉しさが伝わってまいります。

しかし、その喜びもつかの間でしたね。

あなたの実直な責任感の強さが仇となり、

あなたは、自ら天へと召されました。

でも、あなたは今でも、この奈良で生きておられるのです。

朱雀門の前に立派な銅像が建ち、説明版も設置され、

そして、あなたは小説にもなっているのですよ。

JR 奈良駅前の石標もまだ残っていますよ。どうぞ、ご安心くださいね。

そして、あなたのご子孫も、ご友人の溝辺さんのご子孫もお元気でいらっしゃるのですよ。

ご安心くださいね。

いよいよ、4月24日。

平城遷都1300年祭のメイン会場、「平城宮跡会場」がオープンを迎えます。

大極殿復原完成記念式典も挙行されます。

そしてね。

その式典の中で、ちゃーんとあなたも出てくるのですよ。

あなたの、一生涯を賭けた壮絶なるご努力が、現代の奈良人によって讃えられるのです。

なんと素晴らしい事でありましょう。

よかったですよね、ほんとに。私事のように嬉しいですよ。

100年経っても、奈良を助けておられる嘉十郎さま。

私は、そのような嘉十郎さまが、大好きで大好きでたまりません。

あなたの命日の8月16日には、東大寺北側の空海寺に、

親愛なる心をいっぱい詰めて、お参りにあがりたく思っております。

そして、これからも永遠に、愛してやまない奈良を見守ってくださいね。

親愛なる、棚田嘉十郎さまへ。

松本 俊幸（奈良県奈良市）